

# kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Winter 2025 / vol.22

kigokoro

Winter 2025 / vol.22



日本の木になる風景  
静岡県 静岡市 三保松原



最新納入事例  
兵庫県姫路市  
株式会社 アスカ様物件  
人もペットも心地よく暮らせる賃貸住宅  
「フリーハンギングシェルフ(ペット対応アイテム)」  
ほか



新製品紹介  
GRANMAJEST  
「グランマジエストグレインエレメント」  
リブパネルデザイン



永大産業株式会社 静岡営業所



開発者の声



「機能」と、「性能」「質感」。  
フロリングとしての「性能」「質感」。  
永大産業の一体型床廻りで実感していただけます。  
Direct Hihot45PLUS  
ハイホットU2Q  
永大ヒストリー



EIDAI Headline News  
TBS新春スペシャルドラマ 美術協力  
「スロウトレイン」『銘樹モクトーン』



企業訪問  
多可町立杉原紙研究所  
所長 藤田 尚志様 インタビュー

system kitchen  
Lafina Neo  
ラフィーナ ネオ  
Realista  
リアリスタ

リビングキッチンが家族の広場になる。  
リビングやダイニングもトータルな空間としてキッチンを考える。  
美しいデザインと優れた機能性が融合し、家族が心地よく過ごせる特別な場所を提供します。  
心地よさを追求し、空間の魅力を高める表情豊かな素材や色彩、造形を厳選しました。  
暮らしのシーンをもっと自由に。



第22号 令和7年1月1日発行  
編集・発行：永大産業株式会社 事業管理部 広報課  
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051

木を活かし、よりよい暮らしを  
EIDAI | 永大産業株式会社 | お客様相談センター  
www.eidai.com | ☎ 0120-685-110 [受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。  
EIDAI SR 検索





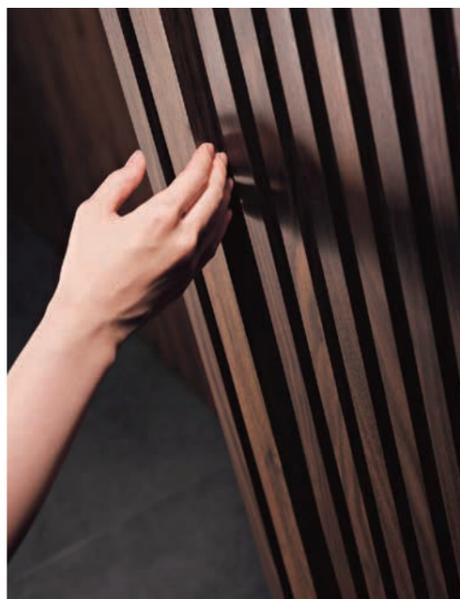
室内ドアに、リブ形状のディテールの一体型取っ手仕様を追加

# グランマジエストグレインエレメント リブパネルデザイン

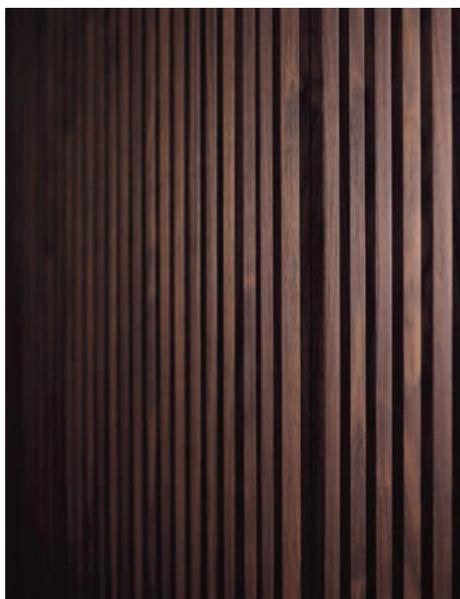
内装材のハイエンド製品「グランマジエスト」シリーズで、2024年1月から展開しているリブパネルデザイン。新たに、取っ手までリブ形状の仕様を発売しました。



詳細はこちら



取っ手には手掛り部分を設けました。意匠だけでなく、使い勝手にも配慮しています。



リブの間隔に合わせて取っ手が納まる設計。ドア本体に取っ手が同化した意匠を実現しました。

ドアと壁面を連続させたデザインを実現

当社では「グランマジエストグレインエレメント」のバリエーションとして、約1年前にリブパネルデザインを発売しました。その最大の特長は、海外でもトレンドになっている細いリブデザインを、木の質感たっぷりに活かして表現していること。ドアから壁面まで、この意匠を連続させた統一感あふれるコーディネートが可能になります。またリブデザインの直線的な造形は、縦格子をはじめとした「和」のデザインにも通じる趣をたたえており、多くのお客様から高い評価をいただいています。

そして今回、お客様の空間づくりへのさらに高いご要望にお応えすべく、取っ手までリブ形状のデザインに合わせた一体型取っ手仕様を発売しました。これにより、ドアと壁面の完全同意匠を実現。一見、そこにドアがあるとは分らないほどノイズレスなデザインを追求しており、隠し扉的な要素も併せ持っています。

もちろん一体型取っ手仕様でも、当初からのリブパネルデザインのコンセプトを守り、ドア本体、枠セット、化粧壁材それぞれのリブ材の寸法(高さ・面一納め)は統一。日本人が好む大和比のデザイン思想をリブ幅の設計に取り入れ、視覚的に安心感のある美しさを追求しています。ドアの厚みは52mmで重厚感あるデザインとし、隠し蝶番を採用することでドア正面から金具が見えないようにも配慮しています。カラーはグレインエレメントに準じた4色展開。ハイエンドな佇まいで住空間の価値を高めます。

## 開発者の声

### 造作対応だったものを工業製品として提供できるのは永大産業ならではの。

これまで造作で対応していたようなハイエンド向けの製品を、工業製品として提供すること。それが、ドアユニット・化粧壁材のすべてを扱う当社の使命と、開発メンバーは考えました。



左から、古川が商品企画を担当、和佐本が設計し、福島が統括。

一体型取っ手仕様についてお聞きする前に、まず最初にリブパネルデザインを開発した経緯をお聞かせください。

古川 リブデザインはもともと世の中に存在していました。近年ミラノサローネで多く発表されるなど、海外の建築・インテリア業界でトレンドになってきました。また、日本古来の格子デザインもZENスタイルと呼ばれて注目されています。これらの要素を建材にも取り入れてはどうかと、そんな発想から企画がスタートしました。従来、ドア・ドア枠・化粧壁材はそれぞれ独立した製品でしたが、それらを一体化すれば壮観だろうなと思いました。和佐本 設計面では、どこからがドアで、どこからがドア枠かが分からないような、リブ形状で面一(つらいち)の意匠を実現することに注力しました。ドアの縦枠を見えないようにする納め方は一番苦労したところです。

リブ幅には大和比が取り入れられているという点ですが、どういったものでしょうか。

古川 大和比は法隆寺のような日本古来の建築に見られる「二ノ間」というデザイン比率で、現代でも東京スカイツリーなどに取り入れられています。日本人なじみ深く、心地よいバランスだと言われているので、リビングに多く使われる今回の製品に活かしたいと考えました。

そして今回の一体型取っ手仕様ですが、こちらの開発に込めた思いは。

和佐本 当初に開発したドアハンドル付きの仕様はハンドルがアクセントになる一方で、



蝶番を隠すだけでなく、縦枠の内側を欠きとり、開閉時のリブ形状の逃げしろにするなど細部までこだわって美しい納まりに。

無い方がリブの存在感が際立つのではというお客様からの多くのご要望をいただきました。そこでハンドルの存在感を無くす設計に半年間を費やし、誕生させたのが一体型取っ手仕様です。手掛り部分は誰もが持ちやすい形状を徹底的に検証しました。福島 理想のデザインを追求するために妥協せず製品設計ができたかと思えます。社内でお披露目した時には「おー!!!」と歓声が上がり、非常に高い評価を得られました。従来、ここまでの意匠は造作でしか実現できなかったと思います。工業製品として品質を担保し、手軽に提供できるのは、建材メーカーの永大産業だからこそ。当社の存在価値をあらためて示せたのではないかと考えています。



内装システム事業部 商品部 IP 商品開発課 (写真 左から) 古川 伸一 和佐本 哲明 課長 福島 康史 中村 莉麻

# 消耗品ではない紙、本物の和紙というものを後世に伝えていきたい

現在、私たちの日常生活で使用される紙の大部分は、木材の繊維を細かく砕いたパルプを原料とし、機械で大量生産される「洋紙」です。洋紙は表面が滑らかでインクが乗りやすく、印刷に最適です。一方、楮(こうぞ)などの樹皮を原料とし、手漉きなどの伝統的な製法で作られる「和紙」も存在します。しかし、原料コストが安く大量生産が可能な洋紙の普及により、全国的に和紙の生産は激減しました。

今号では、洋紙に圧倒され一度は途絶えたものの、町民の後押しで復活した「杉原紙」の和紙職人であり、多可町立杉原紙研究所長の藤田尚志様にお話を伺いました。



多可町立杉原紙研究所 所長 藤田 尚志様

## まずは杉原紙の歴史についてお教えください。

杉原紙の歴史は約1300年前の奈良時代に遡ります。当時、播磨国(現在の兵庫県南西部)には優れた造紙技術があり、これが杉原紙のルーツとされています。文献上の初出は1116年、関白藤原忠実の日記に「相原庄紙」を贈った記述が残っています。この地域は藤原撰家(まねがき)が治める「相原庄」と呼ばれ、そこで漉かれた紙が「相原庄紙」と考えられています。「相」は後に「杉」に変わり、現在は「杉原紙」と表記されています。

杉原紙は耐久性が高く、献上品や公用紙として使用されました。室町時代中期からは一般庶民にも広まり、江戸時代には浮世絵や版画にも使われました。しかし、明治時代の産業転換や政府の造林事業による楮などの雑木の伐採、機械製紙技術の普及により、手漉き和紙の生産は激減し、大正14年には杉原紙の生産も終了しました。

## 一度は消えた杉原紙の灯は、どのように復活したのですか？

「幻の紙」と称された杉原紙の復活のきっかけは、二人の著名な学者が「杉原紙発祥の地は播磨国の杉原谷(現在の兵庫県多可町北部)である」と発表したことでした。このことは杉原谷の人々に大きな驚きと感動をもたらしました。この発表を契機に杉原紙復活の機運が一気に高まり、昭和40年に町内の有志によって杉原紙研究会が設立されました。また、昭和45年には地元(郷土史)研究家が杉原紙



「幻の紙」と称された杉原紙の復活のきっかけは、二人の著名な学者が「杉原紙発祥の地は播磨国の杉原谷(現在の兵庫県多可町北部)である」と発表したことでした。このことは杉原谷の人々に大きな驚きと感動をもたらしました。この発表を契機に杉原紙復活の機運が一気に高まり、昭和40年に町内の有志によって杉原紙研究会が設立されました。また、昭和45年には地元(郷土史)研究家が杉原紙

の歴史を詳しく記した書籍を出版。さらに同年、大正14年に最後の紙漉き職人であった宇高さんが、約半世紀ぶりに杉原紙の紙漉きを再現することに成功されました。杉原紙が現代に復活できたのは、宇高さんの存在が非常に大きかったのです。

多可町では杉原紙復活の活動を支援し、昭和47年に杉原紙研究所を設立して本格的な手漉きを再開しました。その後も歴史と伝統ある杉原紙を漉き続ける中で、町内の人々の「杉原紙を町の文化の一つとして長く息づかせたい」という熱意がますます高まってきました。多可町は兵庫県への働きかけを続け、その結果、杉原紙は昭和58年に兵庫県重要無形文化財に認定されました。さらに、昭和60年にはユニバーシアード神戸大会の表彰状に杉原紙が使用され、日本を代表する和紙として全国に知られるようになりました。その後、平成5年には兵庫県伝統的工芸品にも指定されました。

## 杉原紙の特長をお教えください。

杉原紙は、楮100%、手漉き100%で生産されています。復活当初は自給できるほどの楮が収穫できず、他地域から購入していましたが、「なんとか楮を地元で栽培したい」という町内の人々の想いと、地元有志や町内の様々な団体の協力により作付面積は増えていきました。さらに、平成7年になると、地元の方の発案で町民全世帯参加の「1戸1株栽培運動」を展開し、現在ではほぼ地元産の楮で賄えるようになりました。作付面積も、当初(昭和48年度)は約0.2ヘクタールであったのが、今(令和6年度)では1.0ヘクタールとなっています。

杉原紙の最大の特長は、その白さです。漂白剤などの薬品を一切使用せず、原



楮の刈り取りの様子(杉原紙研究所HPより)

## 杉原紙を後世に伝え、残していくためのお考えをお聞かせください。

杉原紙が復活したとはいえ、実際に紙を漉いているのは杉原紙研究所だけです。本来なら和紙の製紙業として企業化し、利益を上げてこそ復活と言えるかもしれません。しかし、洋紙の圧倒的な需要の前に「儲からないからやめる」ということでは元の木阿弥です。杉原紙研究所は、失われてはいけな文化の伝承を担う町立の施設として運営され、税金も投入されています。私は紙漉き職人でありながら、多可町の職員でもありません。普通なら「経費ばかりかかる施設に税金を投入するのは何事か!」という声もあるかもしれません。それでも研究所が存続しているのは、杉原紙が地域の大きな誇りとして町民全員が支えてくれているからです。逆に言えば、住民の皆さんから杉原紙への誇りと愛着が消えた時には、研究所は不要となり、杉原紙は再び途絶えてしまうでしょう。



100%手漉きで生産される杉原紙

料の楮の質と川さらしなどの工程により、比類のない白さを実現しています。白さを出すために米粉を添加することもありますが、これは古くからの製法の一つであり、伝統を忠実に再現するために行っています。ただし、米粉入りの紙は虫がつきやすいため、現在は一部の紙にだけ添加しています。重要なものは川さらしです。真冬の川に楮を一昼夜浸し、冷水、日光、雪などの自然を利用して、楮をさらに白くします。

出来上がった杉原紙は、きめ細やかで温かみがあり、この紙を使ったちぎり絵などは、その味わいや色合いが魅力的で、多可町特産品として認定されています。また、町内の全小中学校では、杉原紙を使った手漉きの卒業証書づくりが行われています。中には、楮の収穫から皮はぎ、川さらし、紙漉きまでの全工程に挑戦する小学校もあります。このような活動を通して、子どもたちが地元(郷土)の文化を認識し、将来の和紙職人が生まれることを期待しています。

最近では、インテリアや日用品にも和紙が使われることが多くなり、和紙の良さを実際に触れて感じる機会が増えています。私たちも既存の和紙製品だけでなく、様々なものを作り出していきたいと思っています。



楮の質と川さらしなどの工程で白さを実現

ユネスコの世界無形文化遺産に「和紙、日本の手漉き和紙技術」として「細川紙」「本美濃紙」「石州半紙」の3つが登録されていますが、杉原紙は国の無形重要文化財に登録されていません。そのため、世界無形文化遺産には登録されませんでした。まずは国の無形重要文化財に指定されるように、県を通じて働きかけを進めていく考えです。また、私は紙漉きを始めて24年になり、和紙についての勉強もしました。これからも精進し、県や国の伝統工芸士に認定されるよう努力を重ねていきます。まだまだハードルは高いですが、これらの活動を通じて杉原紙の知名度を上げ、紙漉き職人を志す人がこの地を訪れ、伝統が継承されていくことを目指しています。

## 施設概要

施設名: 多可町立杉原紙研究所  
 代表者: 藤田尚志  
 所在地: 兵庫県多可郡多可町加美区鳥羽 768-46  
 従業員数: 8名  
 ホームページ: <https://sugiharagami.takacho.net/>  
 杉原紙の里  
 (杉原紙研究所・展示体験工房・紙匠庵でんでん・寿岳文庫)



杉原紙の里

「和紙とは使い捨ての紙ではなく、書いたものを後世に残すための紙です」と語る藤田所長。古くは奈良時代の和紙の書物が正倉院に残され、京の貴族にも愛されました。昨年の大河ドラマ「光る君へ」でも、紫式部に和紙が贈られるシーンがありました。800年前に書かれた源氏物語の最古の写本は、紙は変色していても現代でも十分読むことができます。

一方、明治時代に伝わった洋紙は大量生産が可能で瞬く間に広まりましたが、寿命は数千年から長くても1000年程度です。そのため、書道や日用品、ちぎり絵など、長く残しておきたい作品の保存には和紙が適しています。

「多可町の職員」という枠を超え、「紙漉き職人」としての誇りを持つ藤田所長は、町民に愛される杉原紙の研究を続け、「良いものを後世に残したい」という使命感を胸に、熱く語っていました。



楮(こうぞ) クワ科の落葉低木。山野に自生する。樹皮から繊維をとって和紙の原料にする。



ちょっと  
一息。

# 木と短歌

あたらししく 冬きたりけり

幹ひびき合ひ

竹群たかむらはあり

鞭むちのごと

宮みや 柎しゅうじ二

北原白秋に師事した、戦後を代表するリアリズムの歌人・宮柎二

新潟県出身の宮柎二は、大正時代の初めに生まれ、昭和に歌人として活躍しました。二十歳で上京して北原白秋の門下に入り、秘書を務めたあと従軍。生還してからは、生々しい戦争の記憶を詠んだ句も含め、リアリズムあふれる短歌を詠みました。掲出歌『あたらししく』は、戦後である昭和27年の短歌雑誌に掲載。当時、宮柎二が勤務していた製鉄会社の寮の近くに竹林があったことから生まれた歌とされています。

冬の訪れを清新な感覚でとらえた、読むだけで五感が刺激される一首

「新しい冬がまたやってきたなあ。鞭のようにしなり、幹と幹がぶつかり合って音を響かせる竹林があることだよ」。冬の初めの冷たく乾いた空気に、吹き付ける風の音、それに騒ぐ竹たちの様子がありありと伝わってくる一首です。

竹は地下茎でつながりながら密集して生える植物で、マダケやモウソウチクなら高さ10〜15mにもなります。そんな竹が鞭に例えるほど曲がるのですから、相当強い風に違ひありません。竹がしなるたびに空が切りひらかれ、冬独特の灰色のぞいては消え…。竹林

## 鑑賞のヒント

「冬きたりけり」は詠嘆の助動詞「けり」が付いて二句切れになっているため、読むリズムに間が生まれます。また、「竹群はあり」と最後でさらに言い切っていることもポイント。これらにより、身を引き締めて厳しい冬を迎える覚悟のようなものを感じ取ることができます。

全体がひとかたまりに動いているようにも見えて迫力があることでしょう。

生きることを誠実に見つめるだけでなく、家族ありきの「おかしみ」も題材に

厳しい冬の到来を描写した掲出歌に限らず、宮柎二の短歌にはどこか寂しく孤独な印象を与えるものが多くいとされています。しかし、「おとうさまと書き添へて肖像画貼られあり何といふ吾が鼻のひらたさ」「昨夜ふかく酒に乱れて帰りこしわれに喚きし妻は何者」など、家族について詠んだユーモアあふれる短歌も残しました。一生活者として、庶民の視点を忘れずに織り込むところも宮柎二の魅力といえるでしょう。

## EIDAI Headline News

TBS新春スペシャルドラマ 美術協力

# スロウトレイン

Slow Train

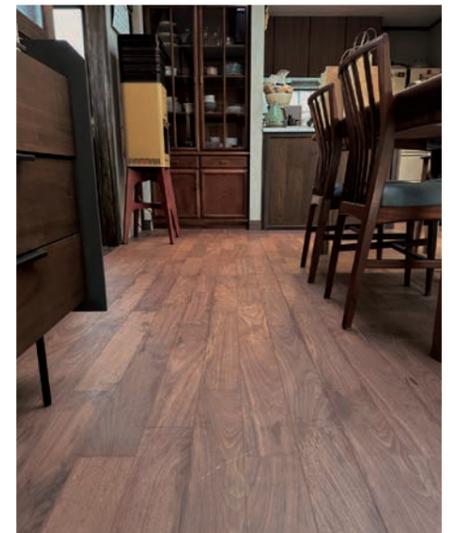
銘樹 Moku-tone  
MEIJYU モクトーン

当社は、1月2日に放送された、TBS新春スペシャルドラマ「スロウトレイン」に美術協力をしました。主人公の三姉弟が住む家のダイニングのセットに「銘樹モクトーン 3Pタイプ ブラックウォールナット」が使われました。

「銘樹モクトーン」は、天然木ならではの素材感をひととき感じる事ができるフローリングです。今回使われたブラックウォールナットは、美しい縞状の濃淡模様が特長で、その色味や質感がセットの空間に馴染んでいます。



詳細はこちら



主人公の3姉弟が住む家のダイニング

「銘樹モクトーン」は、今回採用いただいたブラックウォールナットをはじめ、独自の塗装方法を採用し、天然木本来の風合いを最大限に引き出したフローリングです。

ブラックウォールナットは、世界三大銘木のひとつであり、木目の濃淡ある表情と木肌の落ち着いた色合いは、昔から人気で時代を超えて受け継がれています。

今回のセットの設定は「祖父母の代から続く家」で、隣り合う部屋の畳や廊下、柱の色ともマッチしており、古き良き民家の空間を演出しています。



2階洋室 / ●フローリング「アトムフィットGM」ハードメープル柄  
●室内ドア「スキスM FFデザイン」ハーモニックホワイト柄  
●収納「スキスM クロゼット折れ戸」ハーモニックホワイト柄



1階リビング / ●フローリング「パートナーワン」パールベール柄  
すべりにくく、ペットの歩行も快適。傷もつきにくく、お手入れ簡単で、人にもペットにも優しいフローリングです。



1階洗面 / ●「シャンピーヌブレン」両開き扉タイプ  
収納3面鏡 ポウル:ホワイト 扉:ホワイト

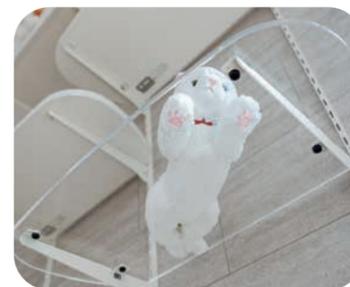


1階キッチン / ●「プレッソ」天板:ロールエンボス 扉柄:エンファホワイト柄



1階リビング / ●収納「フリーハンギングシェルフ(ペット対応アイテム)」  
●室内ドア「スキスM デザインTS」ハーモニックホワイト柄 ペット出入り窓付き  
●フローリング「パートナーワン」パールベール柄  
●カウンター 集成材カウンター ハーモニックホワイト柄

人もペットも心地よく過ごせる空間を作る「フリーハンギングシェルフ(ペット対応アイテム)」、ペットが自由に出入りできるくぐり戸付きの室内ドア、滑りにくく、ペットの歩行も快適なフローリング「パートナーワン」など、ペットとの同居を考えた製品を多数採用されています。



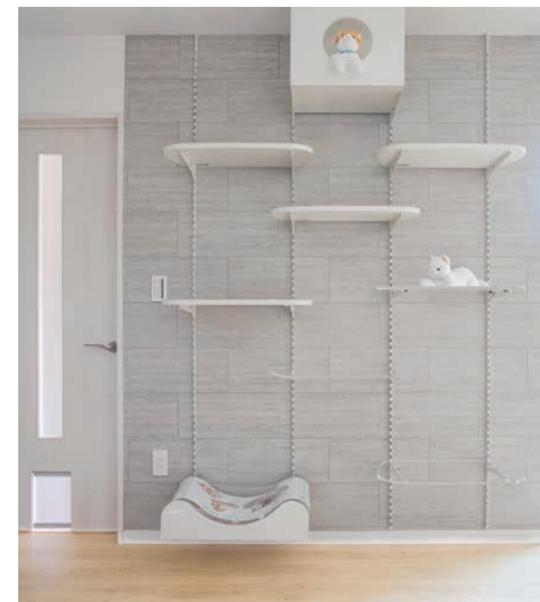
愛猫のかわいい肉球も見放題♪



愛猫の安心できる居場所となる穴あきボックス



ドアを閉めたままでもペットが自由に出入りできます。



1階リビング / ●収納「フリーハンギングシェルフ(ペット対応アイテム)」  
猫が室内で楽しく安心して暮らしていくために、「運動不足」「退屈」「不安」を解消してあげることができるアイテムです。

# 人もペットも 心地よく暮らせる賃貸住宅

兵庫県内で賃貸住宅を中心に建築されている株式会社アスカ様では、このほど、ペットとの同居を念頭に置いた戸建て賃貸住宅を建築され、当社の「フリーハンギングシェルフ(ペット対応アイテム)」や「ペット出入り窓」を設けた室内ドアなどを採用いただきました。  
今回のkigokoroでは、人もペット(猫)も心地よく暮らせる住宅の採用事例をご紹介します。

ペットと一緒に生活したいというご家族は年々増えてきており、今回、『フリーハンギングシェルフ(ペット対応アイテム)』や『パートナーワン』といったペット対応の製品を採用しました。キャットタワーのように、猫が安心して過ごしたり運動できる場所でありながらも圧迫感を感じさせず、猫も人も安心・快適に過ごせる空間ができたと思います。また、ご入居いただくお客様にも、立地や広さ、賃料にプラスアルファの価値をご提供できます。

株式会社アスカは賃貸物件のスペシャリストとして、オーナー様の安定した賃貸経営をお約束しています。当社では紹介制度を採用し、一見様をお断りすることで、建設プロセス全体の効率化を図り、広告宣伝費や営業経費を削減しております。これにより、高品質な商品を低価格でご提供することを実現しています。

また、オーナー様第一主義を掲げ、風通しの良い関係を築きながら、様々なご相談に対応しております。



株式会社アスカ  
営業課長  
結城 卓也 様



# 日本の木になる風景

静岡県 静岡市 三保松原



## 羽衣伝説の舞台にもなった 世界文化遺産「三保松原」

駿河湾に突き出した三保半島に広がる松林。万葉の昔から景勝地として愛されてきた。波間に打ち寄せる白波、霊峰富士山へと連なるように佇む松林、まるで自然が描いた一枚の絵のようだ。

実際に水墨画や浮世絵など沢山の絵師が三保松原を題材に作品を生み出し、後世へと受け継がれてきた。その中で最も有名なのが、歌川広重画「富士三十六景 駿河三保之松原」だ。この作品は静岡市東海道広重美術館で見ることができるので、繊細な色使いを美術物で感じて欲しい。

また、約7キロにも及ぶ広大な海岸には5万本ほどの松の木が生い繁っており、天女の羽衣伝説の舞台にもなっている。海岸に天女が舞い降りたときに羽衣をかけたという樹齢300年に達するという「羽衣の松」というクロマツが今もある。富士山だけでなく、豊かな雰囲気を感じ出しているこの松林もぜひ堪能していただきたい。

こうして、いつの時代も愛され続けてきた三保松原は1922年に日本初の名勝に指定され、2013年には世界文化遺産として登録された。

人々を魅了してきたこの景観の美しさは、今の時代でも変わらず、訪れた人々の心にひとときの安らぎを与えてくれることだろう。

## EIDAI HISTORY 第22回 建材(木質フローリング)

前回到引き続き、建材(木質フローリング)の歴史についてご紹介します。

### 遮音等級LL-45をクリアした電気式一体型床暖房『ダイレクトハイホット45』を発売



1997年(平成9年)は、日本経済にとって大きな転換点となりました。金融機関の破綻や不良債権問題により、企業や家計は先行き不透明となり、景気は停滞色を強めました。当社もこの時期緊急不況対策を発表し、難しい舵取りを迫られることとなりましたが、その中でも高機能の床暖房の開発を続けていました。

電気式一体型床暖房では、2000年(平成12年)にコードヒーターを組み込んだ『ハイホット5(ファイブ)』を発売しました。運転開始後12時間で自動停止する「切り忘れ防止機能」付きコントローラーを採用し、価格もお求めやすく設定しました。2002年(平成14年)にはパネルヒーター(PTCヒーター)を引き継いだ『ハイホットハッピー』を発売。

PTCヒーターの裏面にポリウレタン樹脂発泡体を一体成型し、床下の熱逃げを抑え、上面放熱率を約80%に高めました。2005年平成17年には200Vのコードヒーターを採用した『ハイホットバリュー』を発売。200Vヒーターの採用で、1つのブレーカーに接続できるパネル数が増え、従来の約2.5倍の面積に床暖を敷設できるようになりました。

同年、当社は再び業界初の革新的な製品を発表しました。それが、遮音一体型電気式床暖房『ダイレクトハイホット45』です。この製品は大手ゼネコンとの共同開発で誕生し、コードヒーターを内蔵しながらも特殊緩衝材で床衝撃音低減レベルLL45をクリアする、マンションに最適な床暖房となりました。

しかし、遮音性能を追加したことで問題が発生しました。歩行時のたわみにより、コードヒーター部分に疲労断線が生じたのです。疲労断線がショートすると高電流が流れ、電線が過熱し、周辺に焦げが発生することもあり、最悪の場合は火災の危険性がありました。

そこで当社の建材開発室は、断線対策と再発防止に取り組みました。疲労断線の解決には、コードヒーターの配線溝を広げることでたわみ



を軽減しましたが、コードヒーターが飛び出しやすくなる課題がありました。これには、配線溝を自然な形に整える対策をとりました。また、断線時

の対策として、コードヒーターにセンサー線を組み込んだ仕組みを開発しました。このシステムでは、断線が発生し発熱すると、コードヒーターとセンサー線が接触し、センサー線に電流が流れて安全装置(フェールセーフユニット)が作動し、電流を遮断します。これにより、安全に寿命を迎える仕組みが完成しました。さらに、当時WHO(世界保健機関)をはじめとする、様々な公的機関で調査・研究されていた電磁波問題に対応するため、磁界を打ち

消すツイスト・ペアヒーターを採用し、『ダイレクトハイホット45』で発見した課題点を克服した『ダイレクトハイホット45プラス』を発売しました。

また、温水式一体型床暖房では、2003年(平成15年)に『ハイホットU2Q(ユニーク)』を発売しました。この製品は、温水パイプとアルミ均熱板が一体となった温水シートと溝加工されたフロアを現場で組み合わせるものです。従来の『ハイホットU』で必要だったパイプ通しの手間を省き、パイプの内径を7mmから5mmに変更することで、床フロアの厚さを12mmに抑えることができました。

2000年ごろ、床暖房などの高機能フローリングの開発が進む中、化粧単板や基材に大きな変化がありました。長く主流だったオークなどの環孔材から、メーブルなどの散孔材が人気を集めるようになったのです。当社はこの潮流に乗り、新たなツキ板を用いたフローリングを開発。また、環境配慮の観点から、森林認証を取得した基材を使用した製品も発売しました。次号では、散孔材ブームの火付け役となった「ビーチヨーロッパ」などを紹介します。

(次号に続く)

永大産業株式会社 事業管理部 広報課 ©2025Eidai Co., Ltd.

#### 編集後記

今号の企業探訪で取材した杉原紙研究所様に隣接する道の駅「杉原紙の里・多可」で、和紙でできた菜を買って帰りました。その菜を使いたくて、最近では書棚から本を取り出して読み始めるようになりました。以前は本をよく読んでいたのに、最近ではスマートフォンに時間を取ら

れ、マンガでさえアプリで読むようになっていました。しかし、鳥の貼り絵が施された菜が、書棚に並ぶたくさんの本を忘れないようにと優しく教えてくれた気がします。

お断り：原則、文中での敬称は省略させていただいております。

永大産業株式会社 静岡営業所 【住所】 静岡市駿河区宮竹2-13-1 【TEL】 054-237-8611

### ベテランのきめ細やかな営業で、快適な住まいづくりをお手伝い

永大産業株式会社 静岡営業所は6名のメンバーで静岡県内全域と愛知県、神奈川県、山梨県の一部を担当している営業所です。広い担当エリアを、ベテラン中心のメンバーがきめ細やかな営業で、お客様の快適な住まいづくりをお手伝いしています。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



【後列左から】遠藤、山川、鈴木  
【前列左から】松本、豊澤、藤野(所長)



「のっけ家」のさっぱり5種丼

営業マンの  
オススメ  
ランチ!!